

# 環境コミュニケーションの状況

京都大学環境報告書 2006 をきっかけに、  
様々な交流が広がりました。

## 京都大学環境報告書 2006 発行記念シンポジウムの開催

2007年1月31日(水)に、京都大学百周年時計台記念館1F百周年記念ホールにて、「京都大学環境報告書2006」発行記念シンポジウムを開催しました。

2006年9月に京都大学として初の「京都大学環境報告書2006」を発行し、構成員への配布に努めましたが、環境報告書の認識、環境保全に対する理解はまだ不十分です。そこで、このような形での発信も重ねることで作成者と読み手、そしてさらに多くのステークホルダーとのコミュニケーションを図ることを目的にしました。

プログラム前半は、尾池和夫京都大学総長と上原任京都市副市長の開会挨拶に始まり、第一部「こう読む『京都大学環境報告書2006』」では、環境報告書作成関係者による同報告書の経緯や、概要、作成体制等の報告があ

りました。また、ステークホルダー委員として参加した学生からは、感想や今後の期待等が発表されています。

プログラム後半は、第二部「脱温暖化に向けたバイオマスの利活用に向けて」と題して、池上詢京都大学名誉教授による「脱温暖化に向けたバイオマス利活用の展望」と題した基調講演が行われた後、学内・行政・企業・地域住民の方から具体的な取り組み紹介とともにパネルディスカッションが行われました。実際に、学内の食堂の廃食油を、地域とも連携してバイオディーゼル化すること等の積極的な検討も見られました。

また、オープニングの特別企画として環境報告書作成にご協力頂いた学内外関係者にむけた感謝セレモニーを開催しました。

会場には、大学関係者や行政、企業、

地域の方171名の参加を得、参加者からは、質問や意見が出るなどして活発な議論が交わされました。

### 環境報告書パネル展示の開催

環境報告書を広く知って頂こうと環境報告書パネル展示を京都大学総合博物館と京大サロンで開催致しました。展示は、環境報告書2006ダイジェスト版のパネル展示や環境報告書2006表紙応募作品、京都市立第四錦林小学校から頂いたペットボトルを活用したペン立て(次ページコラム参照)とお手紙を展示しました。

- 参考1：総長室 ([http://www.kyoto-u.ac.jp/uni\\_int/01\\_sou/070131\\_1.htm](http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/01_sou/070131_1.htm))
- 参考2：京都大学環境報告書HP>NEWS (<http://www.kyoto-u.ac.jp/kankyo/report.html>)
- 参考3：環境保全2007 (京都大学環境保全センター)



発行についてのメッセージを送る大高幸一郎  
環境報告書ワーキンググループ代表



パネルディスカッションの様相